

第69回北海道女性議員協議会 in 室蘭 港湾と工業を中心に発展してきた室蘭市で開催



女性採用の利点や苦
労などを質問する丸
山道議

1952年に札幌で第1回目を開催して以降、原則年1回党派を超えて道内の女性議員が集まって、その時々課題を取り上げてきました。企画運営は開催地の女性議員が行っています。

創業以来63年目の
今野鉄工所、現在代表
取締役・今野香澄氏は
2008年入社、経理の

女性の社長も講師に

人材不足は室蘭市も例外ではありません。経済部産業振興係長・松田奈緒美氏からは、今年7月開催の高校1年生から参加できる職場環境見学バスツアーの紹介でした。市内の製造業など、女性にも働きやすい環境整備を進めている企業を紹介。利用した道南バスの女性ドライバーが最後に自社の宣伝をする動画は、市のHPから視聴可能とし、性別を問わず人材と企業をつなぐ事業で女性を応援しています。

人材確保と女性の活躍

仕事に就きましたが、父、叔父に続き2013年に3代目の代表取締役就任。製造の現場にも女性をと現在5名の女性社員を雇用しています。多様な人材がいることで視点が変わると、子育て中の悩みにも寄り添い、長く働いてほしいと語る様子が、やさしくも頼もしい印象でした。



市民の声を

反映した複合施設

会場となった生涯学習センター「きらん」は、市民の声で図書館、キッズパーク、カフェコーナー、音楽スタジオに陶芸の窯も備えていました。

原発再稼働めぐり不適切発言！



記者会見する
(左から)丸山、真下両道議

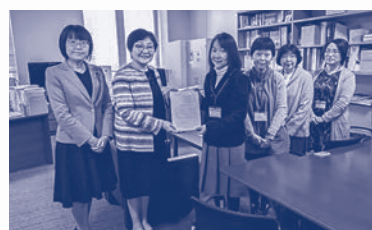
謝罪と撤回 求める

事が起こったのは定例会初日。注目の泊原発再稼働を知事は「総合的に判断」と答弁したのに、職員にメモを入れられ降段間際に「最終的に判断」と訂正。真下紀子議員がすかさず議事進行をかけ理由の説明を求めたところ、暫時休会に。

ヤジが飛び交う議場。混乱の中議員席から「今こそ緊急銃猟を」と。言論封殺の、あまりに不穏当な発言であり、日本共産党道義団は謝罪と撤回を求め議長に申し入れ記者会見を行いました。

介護報酬引き上げ等緊急要望

「介護の社会化」をうたい、25年前に導入された介護保険制度。2027年の制度改正に向け、議論されているのは、ケアプラン有料化や要介護1・2の保険外し。そうではなく利用者に使いやすい制度、働く人が誇りを持てる処遇と利用者が安心できる制度を実現しましょうと懇談しました。



生活クラブ生協の皆さんから要請を受ける
(左から)丸山、真下両道議

北海道原子力防災総合訓練を視察 ー「原子力災害の発生」と「地震等による被害」を想定ー

10月29日、万一の場合に防災対策を円滑に実施出来るよう、関係機関との連携や関係者の防災技術の向上を図るため、道と原発周辺13町村が主催した防災訓練が行われ、その様子を丸山議員が視察しました。

北海道原子力防災センター

共和町にあるセンターの運営に関する訓練は、原発周辺の道路が通行止めとなった想定で行われました。情報共有のために張り出された地図を見ると、実際の避難の困難さは想像以上であろうと感じました。緊急時には150人を超える要員が、ここでの運営にあたることになります。

アップルポート余市にヘリで避難

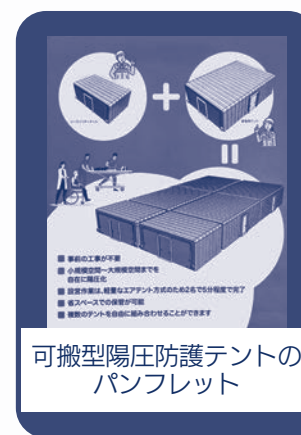
前日に地震が起きたと想定し、孤立した神恵内村からヘリで避難する訓練です。今回はお二人がヘリに乗り込みます。実際は、一度に最大10人程度、所要時間は片道15分程。しかし天候の影響は受けるでしょう。



多方面で活躍するドローン

昨年度の視察に引き続き、今回もドローンで上空から災害情報の収集、映像での確認の様子を視察しました。住民への広報は、多言語対応可能です。今回は物資輸送訓練で、約25kgまでの荷物をドローンで運ぶ訓練が行われました。

屋内退避にエアテント



複合災害で想定される屋内退避。陽圧の室内環境が大きな課題です。今回、古平町の障害者支援施設「共働の家」で、移動が可能な陽圧防護テントが紹介されました。

居室用は8畳四方、10床のキャンプ用ベッドが設置可能。空気浄化の機械をセットにして、約3千万円という説明でした。

屋内退避中の陽圧環境は多くの人が懸念を示しています。技術的には対応可能としても費用は誰が負担するのか。国や道、北海道電力が責任を持つのか、大いに疑問を感じました。